

# 街並み構成要素の変化と住民の記憶の関係 -長野県宮田村宮田宿区域を対象として-

増田 大夢<sup>1</sup>・佐々木 葉<sup>2</sup>

<sup>1</sup>学生会員 早稲田大学大学院 創造理工学研究科 建設工学専攻  
(〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1, E-mail:h-masuda@moegi.waseda.jp)

<sup>2</sup>フェロー会員 博士(工学) 早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科  
(〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1, E-mail:yoh@waseda.jp)

日本各地で様々な事情により街並みは変化しているが、一方でまちの個性や歴史、住民の思い出を活かしたまちづくりが望まれている。街並みを構成する要素の変化と住民の記憶の集まる場所との関係を明らかにすることを目的として、長野県宮田村の宮田宿区域を対象に住宅地図から建物・用途の変遷の把握と、古写真を用いた住民へのヒアリングから記憶の集まる場所の調査を行った。その結果、変化が重層したことにより多様な対象について語られて記憶が集まる場所と、過去の日常的な経験により特定の対象について多様な内容が語られて記憶が集まる場所が抽出された。また、建て替えや空地化されずに残っている建物を見ることによって、その建物に関する記憶の他に当時の町の様子などが想起されることがみられた。

**キーワード:** 宮田村, 街並み構成要素, 住宅地図, 記憶, ワークショップ

## 1. 研究の背景と目的

### (1) 研究の背景

地方都市の中心市街地とされる地区の多くは、城下町や街道沿いの集落などの歴史的な背景を有していることが多いが、伝統的建造物群保存地区に指定されるような、ある一定の時期の歴史的景観が良好に保全されている町は稀であり、多くの町では様々な変化が重層した結果、雑多な街並みが形成されている。このような街並みは、一見ただ雑然としていいると思われがちであるが、個々の建物や特定の場所に注目すると、変化していても住民の記憶や意識に強く残っているところがある。

地域の個性、歴史を活かすことや、住民参加を重要視したまちづくりが各地で行われている中で、住民一人ひとりが持つ町の記憶や思い出を共有し、後世に伝えていくことは重要なこととされている<sup>1)</sup>。したがって、街並みが増え変化していく中で、住民がどのような変化を意識し、どのような場所を記憶しているのかを把握することは、地域の特徴を活かした住民参加のまちづくりを行っていく上で必要なことであると考えられる。

### (2) 研究の目的

本研究では、様々な変化によって街並みの特徴が希薄化してきている地域において、街並みを構成する個々の建物や道路の変化の履歴を把握し、そこから住民に記憶

されている場所の特徴を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究の概要

### (1) 既存研究の整理

特筆すべき特徴を持たないような一般的な市街地における場所の特徴を抽出しようとする研究は多くみられる。菊山ら<sup>2)</sup>は過去の地図や書籍等から歴史的な文脈を把握して細街路景観の特徴を探っている。また、添田ら<sup>3)</sup>は地形図と土地利用変化の特徴から都市構造の地図を作成し、ワークショップや文献調査から作成する意味の地図と重ね合わせて町の特徴を探る多層化地図という手法を確立している。

また、近隣環境に対する認識を行為と距離の観点からみた渡部ら<sup>4)</sup>や加藤<sup>5)</sup>の研究や、住民の記憶や意識が集まる場所の特徴を、土地利用<sup>6)</sup>や文献から抽出した住民の生活行事の分布<sup>7)</sup>、歴史的なもの<sup>8)</sup>との関係から明らかにしている研究など、近隣環境に対する記憶や認識を取り扱った研究も多くなされている。

### (2) 本研究の位置づけと研究の方法

既存研究により、地形や土地利用、建物利用の変化等の景観特性と住民の記憶や認識に関する研究は進められている。本研究では、住宅地図を用いて詳細な建物とその用途の変遷を明らかにするとともに、それらの変化と

住民の記憶している場所との関係を比較する。

具体的には、空間的な街並みの変遷を明らかにした後、過去の写真を用いた住民へのヒアリング調査を行い、記憶に残る場所を明らかにして、2つを比較し考察する。

### 3. 対象地概要

#### (1) 対象地の選定

本研究では、個々の店舗や住宅の変遷に着目するため、歴史的な場所や変化が起りやす場所があると考えられる中心市街地を対象とすることが望まれる。そこで、江戸時代から伊那街道の宿場町として栄えていたが、現在は建て替えや空地化が進み、かつての面影を失いつつある長野県宮田村の中心市街地で、平成29年に施行された景観計画<sup>9)</sup>の中で歴史保全区域に指定された「宮田宿区域」を対象地とする。

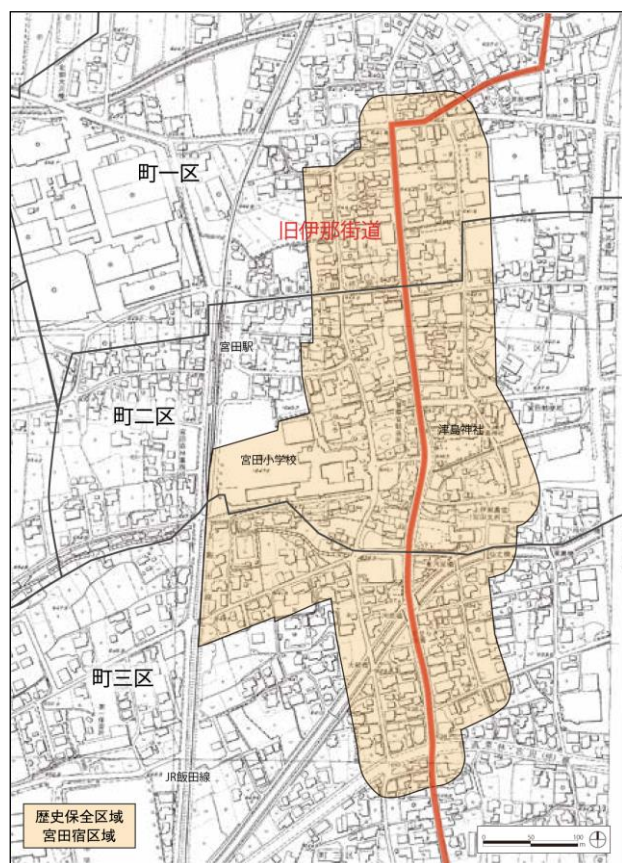


図-1 宮田宿区域の概要図 <sup>10)</sup>に加筆

#### (2) 対象地概要

長野県宮田村は上伊那郡の中央に位置する村で、対象とした宮田宿区域は、宮田村の町一区、町二区、町三区にまたがる中心市街地である。人口は町一区、町二区、町三区それぞれ950人、558人、2,205人（2017年11月現在）<sup>宮田村HPより</sup>で宮田村の全体の約4割を占めている。

宮田宿区域の中央には南北に旧伊那街道が通っており、かつての面影として、現在でも町屋や土蔵が見られる。

しかし、町屋は空き家になっていたり、維持管理が大変であることから蔵を取り壊してしまい空地となっている場所も見られる。その他に、宮田宿区域には宮田村唯一の小学校や、神輿を石段の上から投げ落とし打ち壊す奇祭、祇園祭の舞台となる津島神社がある。

また、景観計画策定の議論に関わった有志で立ち上げられた宮田村の景観を考える会という団体が「まちなかをみる、しる、たのしむ、わかちあう」をキーワードにまちなかの魅力を再発見してもらうような活動を行っている。

### 4. 街並み構成要素の変遷の調査

#### (1) 住宅地図による分析

宮田村のゼンリン住宅地図は、1982年から2017年までの計35冊が国立国会図書館に所蔵されている。これらの住宅地図から宮田宿区域の範囲をArcGIS上で重ね合わせ、各年の建物のポリゴンと道路のポリラインを作成し、変遷を可視化できるようにした。

建物の用途は住宅地図に記載されている屋号から推測し、住居、商業、工場、寺社・宝蔵庫、公共施設、蔵、倉庫・ガレージ・車庫、不明の8つに分類した。分類の内容は、表-1に示す。

表-1 建物用途の分類

| 用途         | 記載内容例        |
|------------|--------------|
| 住居         | 居住者名、アパート、社宅 |
| 商業         | 店舗名、事務所、病院   |
| 工場         | 工場名、木工所      |
| 寺社・宝蔵庫     | 津島神社、白心寺、宝蔵庫 |
| 公共施設       | 宮田小学校、消防、交番  |
| 蔵          | クラ、土蔵        |
| 倉庫・ガレージ・車庫 | 倉庫、ガレージ、車庫   |
| 不明         | 記載なし         |

#### (2) 道路・建物の変化の把握

1982年から2017年までに道路の新設や歩道確保のための道路拡幅が計5か所で見られた。その位置と年代を表-2に示す。次に、調査期間の36年間における新築の建物は計162軒、空地化・駐車場化した建物は計186軒あった。1999年に地図の縮尺が変更された際、小さな建物が新たに記載されるようになったため、新しく現れた建物（新築）が50軒と急増していたことを考慮しても、まちなかは徐々に空洞化してきていることが分かる。道路が変化した位置と空地化、駐車場化した場所の関係を図-2に示す。

表-2 道路の変化

| 位置          | 年代                          | 変化        |
|-------------|-----------------------------|-----------|
| 河原町西交差点（西側） | 1984年（S58.10）から1984年（S59.1） | 新設        |
| 河原町西交差点（東側） | 1986年から1989年                | 道路拡幅      |
| 津島神社前       | 1986年から1989年                | 道路拡幅、歩道整備 |
| 河原橋（南北）     | 2001年から2002年                | 歩道整備      |
| 北町交差点付近     | 2013年から2015年                | 道路拡幅      |

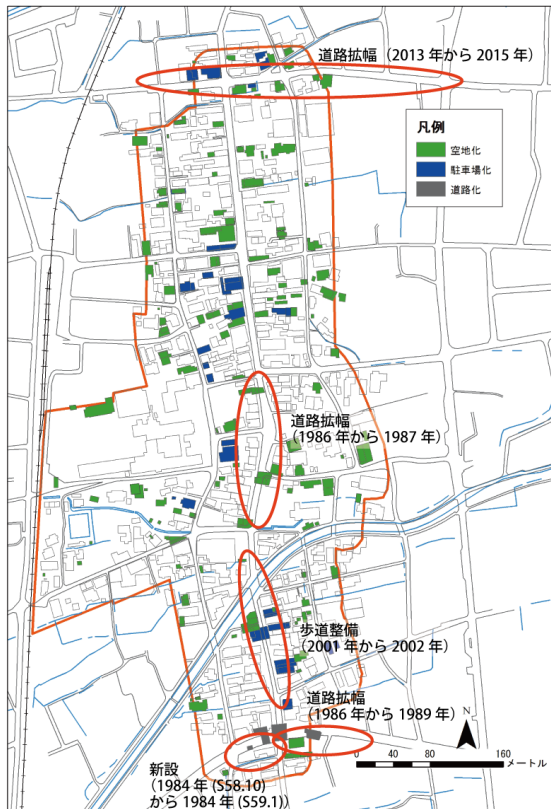


図-2 1982年から2017年における道路変化と空地化，駐車場化  
(年代は住宅地図から判断)

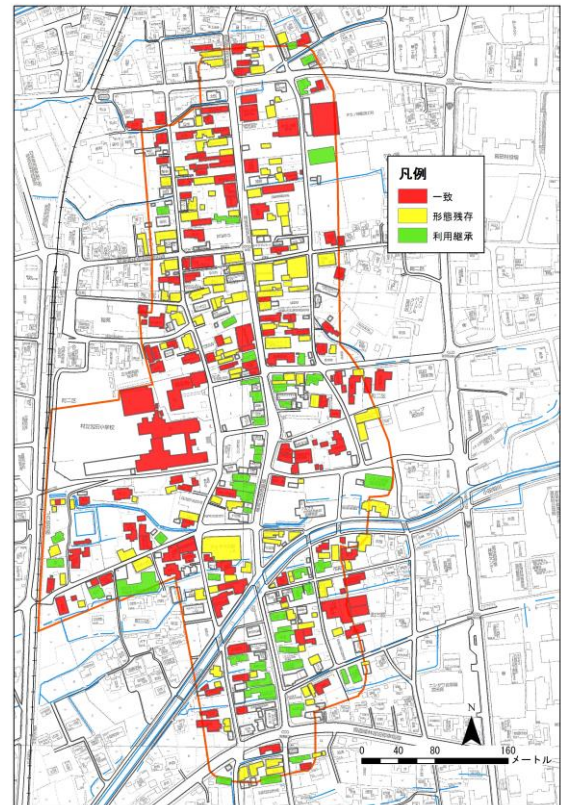


図-3 1982年から2017年までの用途変化と建物変化

### (3) 建物の用途変化

用途毎の建物軒数の変化を見たところ(表-3)，36年間で住居が34軒，商業が42軒と大きく減少していることが分かった。一方，不明な建物が48軒増加していることから，建物は残っていたとしても空き家や空き店舗が増加していることが考えられる。

建物の変化について1982年から建物・用途がともに変化していない「一致」，用途は変化したが建物が残っている「形態残存」，建物は建て替えられたが用途は引き継がれている「利用継承」の3種類に分類したものを図-3に示す。北側の町一区では建物が変化しない「一致」，「形態残存」が多くみられるが，対象地の中央にある町二区や南側の町三区の旧街道沿いでは建て替えがされた「利用継承」が多くみられる。

表-3 5年毎における用途別の建物軒数

| 用途<br>年 | 住居  | 商業  | 工場 | 神社・宝蔵庫 | 公共施設 | 蔵 | 車庫・ガレージ・倉庫 | 不明  |
|---------|-----|-----|----|--------|------|---|------------|-----|
| 1982年   | 242 | 142 | 16 | 5      | 9    | 0 | 15         | 72  |
| 1987年   | 228 | 145 | 15 | 5      | 12   | 2 | 25         | 78  |
| 1992年   | 251 | 142 | 16 | 6      | 9    | 2 | 25         | 44  |
| 1997年   | 243 | 130 | 17 | 6      | 9    | 2 | 23         | 52  |
| 2002年   | 276 | 118 | 15 | 5      | 10   | 4 | 20         | 64  |
| 2007年   | 219 | 106 | 10 | 5      | 10   | 4 | 18         | 125 |
| 2012年   | 220 | 104 | 10 | 6      | 12   | 3 | 15         | 118 |
| 2017年   | 208 | 100 | 11 | 6      | 11   | 4 | 15         | 120 |

## 5. 場所の記憶の調査

### (1) 場所の記憶の調査方法

地域住民が抱く場所の記憶の調査は，まちなかの思い出を語っていただくワークショップを開催し，ヒアリングから場所に関する記憶を抽出した。記憶には，場所の定位，変化，印象，知識を想起させる意味記憶と，個人の体験を想起させるエピソード記憶が存在すると考えられ，抽出した記憶を分類し分析を行う。

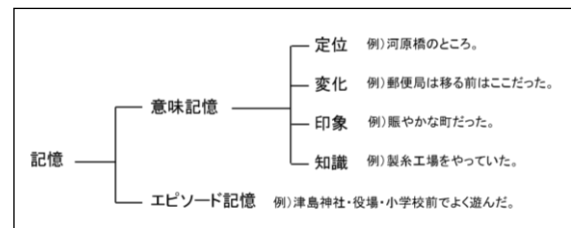


図-4 記憶の分類カテゴリー

### (2) 調査概要

ワークショップは，宮田村社会福祉協議会が行っているミニデイサービスの場をお借りして，2017年11月15日，17日，22日の計3回行った。ミニデイサービスとは，65歳以上の家に閉じこもりがちな方，75歳以上で地区が認める方等を対象に，月1，2回各地区ごとに公民館等が集まって，体操，ゲーム，工作などを行い健康な日常生活



が送れるように支援するサービスである。ミニデイサービスの参加者をヒアリングの対象として選定したのは、対象地に一定の居住歴があると考えられるためである。また、ワークショップ形式でヒアリングを行ったのは、年齢の近い人とお話をしながら行うことで、昔の記憶がより引きだせると考えたからである。

ワークショップには、ふるさと宮田写真集<sup>1)</sup>から引用した、少し昔の街並みの写真10枚(図-5)と、2017年の住宅地図に1982年の商業系の建物情報を加えて作成した地図(図-6)を使用した。写真は、旧伊那街道沿いを中心に、分布に偏りがないように選定した。

ワークショップでは、初めに写真と地図を見てもらい、周りの人とおしゃべりをしながら、昔の記憶を呼び起こしてもらう。その後、写真ごとに思い出を語りあっていただき、最後に参加者の性別、年齢、居住歴とワークショップ中に語りきれなかった思い出をシートに記入してもらった。ワークショップの様子は、ICレコーダーとビデオカメラで録音・録画し、後に確認できるようにした。

### (3) ワークショップ参加者

ワークショップには対象地が含まれる町一区、町二区、町三区のミニデイサービスの参加者29名と、各区にお住いのボランティアスタッフ6名の計35名の方たちにご協力いただいた。各区の参加人数は町一区12人、町二区9人、町三区14人であった。参加者は全員女性で、平均年齢84.3歳、中心市街地の平均居住年数は57.9年である。

### (4) 記憶の分類

ICレコーダーで録音したヒアリングデータから語られた記憶を書き起こし、シートに記入してもらった語りきれなかった記憶と共に記憶の対象と図-4に示したカテゴリで分類を行い、664の記述としてデータ化した。これらを対象別にみると(図-7)、商店に関する記述が最も多く381個あった。商店に関する記憶の中でも、特にスーパーなどの食品店に関する記憶が多かったことや、商店に次いで町や通りに関する記憶、公共施設に関する記憶が多く見られたことから、かつての日常的な経験による記憶が語られやすい傾向があると考えられる。

また、記憶の分類別にみると(図-8)、全体では場所の定位に関する記憶が最も多く、次いで場所の知識、エピソード、場所の変化が多く見られた。しかし、町二区では場所の知識に関する記憶が最も多く、場所の定位が占める割合は20%であった。居住区別に写真ごとに語られた記憶の分類をみたところ、居住区に近いほど場所の変化、知識、エピソードの記憶が多く語られる傾向があり、居住区から離れるほど、場所の定位に関する記憶の割合が大きくなる傾向がみられた。町二区の写真では居住区



図-5 ワークショップに使用した写真の一覧  
(写真番号は図-6の位置に対応)

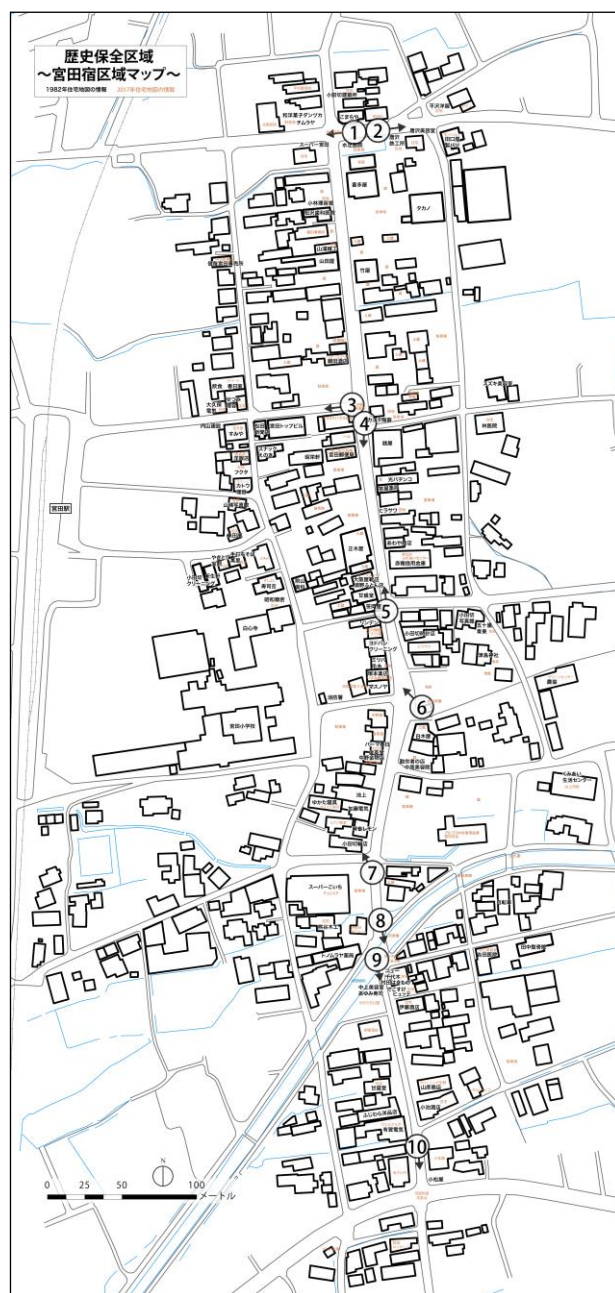


図-6 ワークショップに使用した地図 (写真位置を追記)

によらず、場所の知識やエピソードに関する記憶が多く語られていたが、これは町二区が周辺に住む人にとっても生活の場であったためだと考えられる。

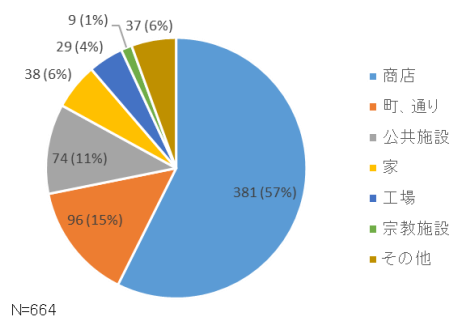


図-7 記憶の対象の構成比

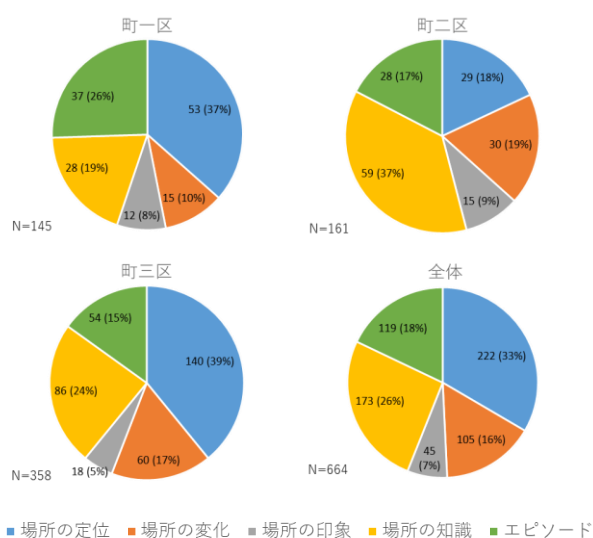


図-8 記憶の分類の構成比

### (5) 記憶の場所

分類した記憶から自宅に関する記述と知人の家の定位に関する記述を除き、場所が特定できた565の記述を地図上にプロットした(図-9)。居住区別にみると居住区の近くに関する記憶がまとまって多く語られていたことが分かる。特に、町一区の北町と町三区の河原町に関しては、他の地区に住む人の記憶は著しく少なかった。一方で、町二区では、町一区、町三区に住む人の記憶も多かったことから、町二区はまちなかでも特に中心地であり、周辺の住人にとっても生活の場となっていたことが明らかとなった。

また、個々の建物の場所について語られる記憶の他に、建物の記憶から昔の村の様子が派生して語られることがあった。具体的には、製糸工場だった建物や津島神社が挙げられ、昔は芸者や商人がたくさんいて賑わっていた様子が語られた。このような建物は、昔の記憶を語る際の手掛かりになると考えられる。

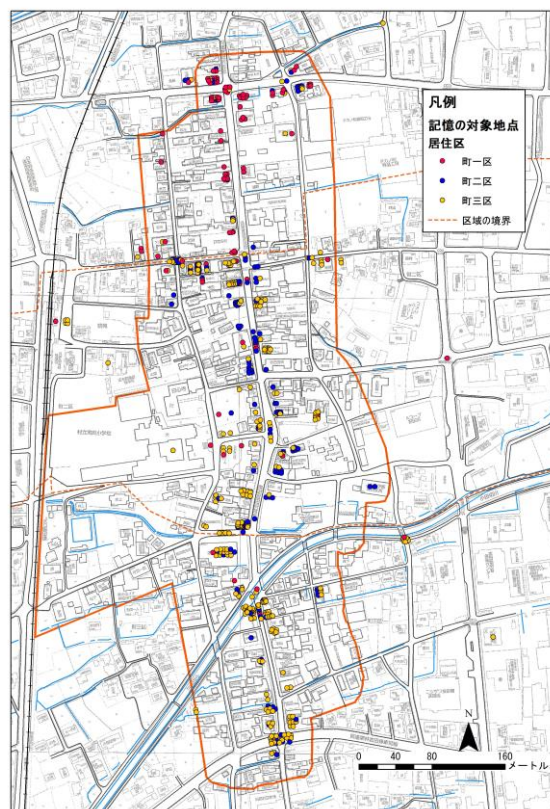


図-9 語られた記憶の分布図

## 6. 街並み構成要素の変化と住民の記憶の関係

### (1) 街並み構成要素の変化と住民の記憶の比較

5章で明らかとなった記憶が多く集まる場所について、その場所における建物の変化と住民の記憶との比較を行った(表-4)。記憶が多く集まる場所の変化をみると、記憶の対象は建物・用途がともに変化し「消失」してしまっていることが多いことが分かる。このような場所は、スーパーや美容院、郵便局など、かつての日常生活に密着していた施設のあった場所や、道路の新設や拡幅によって、空間そのものが大きく変化した場所であった。建物は変化したけど用途は変化せずに引き継がれている「利用継承」の場所に関しても、記憶が多く集まるのは、かつてよく利用されていた商店などであった。用途は変化したけど建物は変化していない「形態残存」の場所では、現在の用途に関する記憶は少なく、過去の無くなった対象について多く語られていたが、一つの場所で想起される対象が複数あることが多かった。建物・用途がともに変化していない「一致」している場所で多くの記憶が語られたのは商店の他に神社があった。

変化によらず多くの場所で語られた商店について、記憶の対象の現在の様子を、現在もある「存在」、建物は残っている「形態残存」、建物・用途ともに失われた「消失」に分類して記述数と対象数をみると、記述数・



対象数は共に「消失」したものが最も多かったが、対象当たりの記述数は「存在」，「形態残存」が「消失」したもののより多かった(表-5)。

表-4 記憶の集まった場所とその場所における変化

| 場所記憶数 | 場所の現状(語られた過去の対象)                    | 変化     |
|-------|-------------------------------------|--------|
| 23    | 宮田トップビル、酒井電機、昭栄軒(とり吉)               | 一致     |
| 22    | 住居(小田切輪店、よもかわ、テンジン)                 | 消失     |
| 19    | 河原町西交差点西側(道路、大きな建物、旧ふじわら洋品店、農地)     | 消失     |
| 18    | 末広町(通り、置屋、チンドン屋など)                  | -      |
| 17    | オヒサマの森(旧下駄工場、こいち)                   | 形態残存   |
| 14    | 住居(シナノヤ)                            | 消失     |
|       | 駐車場(チムラヤ)                           | 消失     |
|       | 親愛の里シンフォニー(旧信金、八十二銀行)               | 形態残存   |
| 13    | モンパルノ(田口屋)                          | 利用継承   |
| 12    | 町二区公民館(旧郵便局)                        | 消失     |
| 11    | (小田切川沿いのお豆腐屋さん)                     | 不明     |
| 10    | 河原町せせらぎ公園(旧中上美容室、鍛冶屋)               | 消失(移動) |
|       | 小松屋                                 | 利用継承   |
|       | 住居(旧ニュー千代本)                         | 消失     |
| 9     | カラオケハウスみみ(旧銀行、信金、質屋、商工会、みなみ屋、オリイ薬局) | 形態残存   |
|       | 空き家(西笹屋、製糸工場)                       | 形態残存   |
|       | 小田切川沿い(通り、家)                        | -      |
|       |                                     | -      |
| 8     | 北町(町の賑わい)                           | -      |
|       | 駐車場(水足医院)                           | 消失     |
|       | 空地(勤労者の店、テンジン、セイキョウ)                | 消失     |
|       | 津島神社(芸者、祇園祭)                        | 一致     |
|       | 河原町西交差点東側(旧あさひや)                    | 消失     |
|       | 河原町(通り、飲み屋、家など)                     | -      |
|       | 空地(でこすけ)                            | 消失     |
|       |                                     | -      |

表-5 商店の現状別の対象当たり記述数

|      | 記述数 | 対象数 | 記述数/対象数 |
|------|-----|-----|---------|
| 存在   | 133 | 32  | 4.16    |
| 消失   | 196 | 64  | 3.06    |
| 形態残存 | 38  | 10  | 3.80    |
| 移動   | 12  | 2   | 6.00    |
| 不明   | 2   | 2   | 1.00    |

## (2) 考察

今回、平均年齢80歳以上の女性にヒアリングを行った結果、商店や公共施設などに関する記憶は対象がなくなっても語られていたことから、かつて日常的に訪れていた場所は、建物自体ではなく体験により強く記憶されていると考えられる。また、「形態残存」となった場所では、語られる対象が複数あることが多かったことや、商店について対象の現状別に対象当たりの記述数を見たときに、現在も存在しているものが最も多く、次いで形態残存しているものが多かったことから、建物が残っていることで過去の様子や状態が語られやすくなる傾向があることが考えられる。

## 7. まとめ

本研究では、街並みを構成する個々の建物と道路の変

化に対する住民の記憶の集まる場所について分析をしてきた結果、以下の点が明らかになった。

- ・語られる記憶は居住区の近くに集まり、居住区に近いほど「場所の変化」、「場所の知識」、「エピソード」などの多様な記憶が語られ、居住区から離れるほど語られる記憶は「場所の定位」に留まる傾向があることが明らかとなった。しかし、生活の場であったまちの中心地には居住区によらず多様な記憶が集まる。
- ・記憶が多く集まる場所は、建物の変化によらず過去の日常的な体験によって特定の対象が多様な内容により記憶されている場所と、変化が重層したことによって多様な対象について記憶されている場所があることが明らかとなった。
- ・特定の場所について語る際は、建物が残っていることにより過去の様子や状態が語られやすくなることが示唆された。

**謝辞：**本研究のヒアリング調査において、宮田村社会福祉協議会の小田切久美子氏並びにミニデイサービスの参加者の方々、宮田村の景観を考える会の天野早人氏には多大なご協力を頂いた。厚く謝意を表する。

## 参考文献

- 1) 後藤春彦，佐久間康富，田口太郎：まちづくり・オーラルヒストリー「役に立つ過去」を活かし、「懐かしい未来」を描く，水曜社，2005
- 2) 菊山幸輝，大山勲：歴史の重層した密集市街地における細街路景観の特徴の抽出，都市計画論文集，No.42-3，pp.85-90，2007
- 3) 添田信行，佐々木葉：多層化地図を用いた一般的な市街地における場所性の抽出方法，土木計画学研究発表会講演集，第39回，No167，2009
- 4) 渡部陽介，横張真：行為と距離の観点からみた農村地域居住者が地域アイデンティティとして認識する景観の特徴，ランドスケープ研究，73巻，5号，pp.643-646，2010
- 5) 加藤悠介：インタビュー調査にもとづく近隣環境における高齢者の愛着場面に関する研究，日本建築学会計画系論文集，第78巻，第687号，pp.997-1002，2013
- 6) 山口美緒，横張真，渡辺貴文：住工混在地域における居住者の心象風景の解明，都市計画論文集，Vol.31，pp.745-750，2001
- 7) 森信秀一郎，荒井歩：埼玉県八潮市における景観変遷と住民の景観認識に関する研究，ランドスケープ研究，73巻，5号，pp.755-758，2010
- 8) 窪田亜矢：水郷の商都・佐原における「記憶の枠組み」についての研究，日本建築学会計画系論文集，第79巻，第705号，pp.2443-2452，2014
- 9) 長野県宮田村：宮田村景観計画，2017
- 10) 文献 9)，p.35より引用
- 11) ふるさと郷育応援事業実行委員会：ふるさと宮田写真集，2017